

ECB後継総裁人事の初手

発表日：2018年5月22日(火)

～ドイツとフィンランドが名乗り～

第一生命経済研究所 経済調査部
主席エコノミスト 田中 理
03-5221-4527

◇ ドイツ連銀のバイトマン総裁とフィンランド中銀のリイカネン総裁は最近の発言で、来年秋に退任するECBのドラギ総裁の後継者への意欲を示した。ハト派寄りの国は過去2代の総裁と次期副総裁を輩出しており、今回はタカ派が優勢。ドイツは自国出身者の総裁就任を目指しているが、タカ派姿勢が目立つバイトマン氏の就任を他国が警戒すれば、ドイツ以外のタカ派寄りの国の出身者が後継総裁に就く可能性が高まる。フィンランド出身者はポスト・ドラギの有力候補となりそうだ。

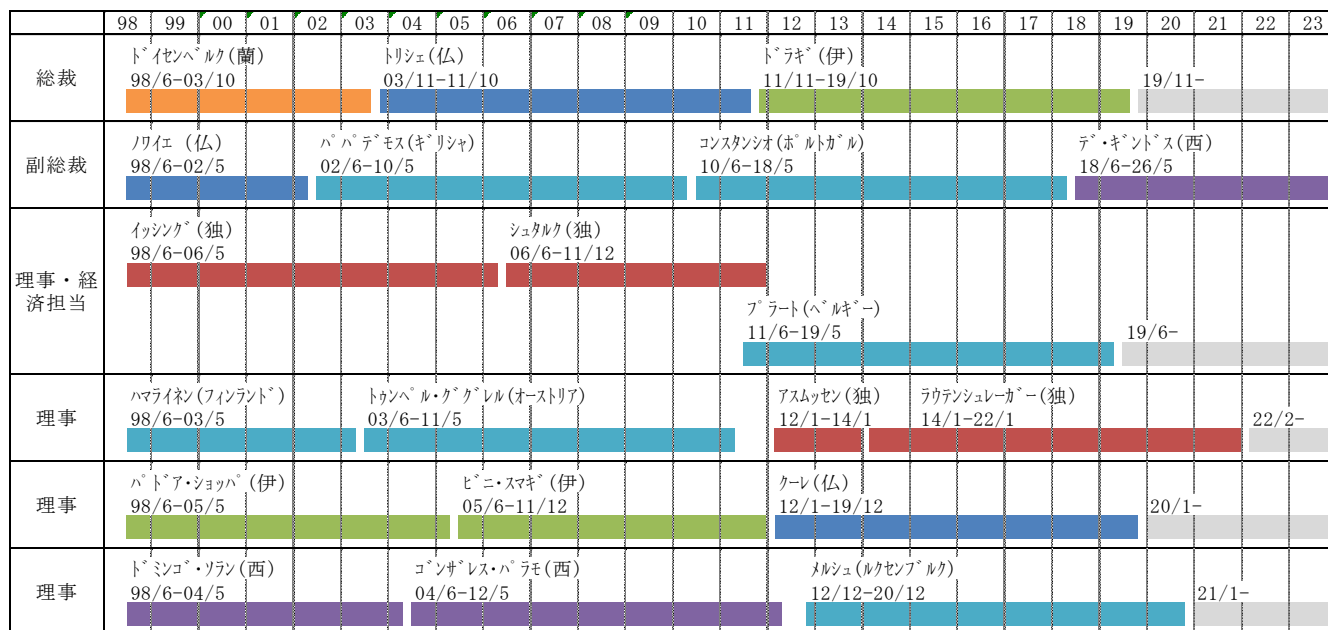
ドイツ連銀のバイトマン総裁は19日付けのドイツ紙のインタビュー内で、「ECB理事会の全てのメンバーはそれぞれが異なる役割に基づき金融政策に貢献する意欲を持たなければならないと私は考える」と発言し、来年10月末に任期を迎えるECBのドラギ総裁の後継者への意欲を示したと受け止められた。来年以降に本格化するとみられる後継総裁人事では、ドイツ政府が自国出身総裁の誕生を目指しているとされ、バイトマン氏が有力候補と目されている(図)。同氏は連銀総裁就任以前にメルケル首相のアドバイザーを務めるなど、政界とのつながりも強い。ただ、ECBが危機対応の一環で採用してきた非伝統的な金融政策の多くに反対し、ドイツ伝統のタカ派的な発言が目立つ同氏の総裁就任には、拙速な引き締めが景気安定の脅威になるとの不安の声も上がっている。バイトマン氏はインタビューの中で、「近く資産買い入れの終了時期を明確にすることが賢明と考える」と発言し、緩和終了の判断を必要以上に先送りしない方針を示唆した。同時に「ECBの量的緩和策が来年以降継続しないとの市場の観測は妥当である」、「2020年のユーロ圏のインフレ率が1.7%になるとのECBの最新見通しは、個人的な見解では物価安定の定義と合致するものである」とも発言し、過度な引き締めを想定している訳ではないことも明らかにした。過度にタカ派的なトーンを出すのを避けたことも、後継総裁人事を睨んでのことかもしれない。

バイトマン氏のインタビューと同日、フィンランド中銀のリイカネン総裁も、ポスト・ドラギに静かな意欲を示した。テレビ・インタビュー内でECBの後継総裁候補になる可能性を問われ、「私はいかなる職にも自ら応募することはない。ただ、職務を果たすかを問われる状況があるかもしれない。その時は検討しなければならない」と答えた。2004年に同國中銀総裁に就任したリイカネン氏は、ECB理事会内で最古参メンバーの1人。総裁就任以前は、同国の国会議員、財務相、欧州委員などの要職を歴任し、同国政界やEUとのパイプも持つ。ドラギ総裁からの信頼も厚く、後継総裁の資質を十分に備えていそうだ。7月に2期14年の任期を終えて中銀総裁を退任し、後任には現副総裁のレーン氏が就任する。レーン氏は欧州債務危機時の経済・通貨担当の欧州委員として、危機対応を陣頭指揮したメンバーの1人で、こちらもドラギ総裁の後継候補としてしばしば名前が上がる人物だ。

ドイツ政府はこれまで幾度となく自国出身者のECB総裁就任を目指したが、そのタカ派ぶりやドイツ出身者がEUの重要ポストの多くを占めることへの警戒もあり、特に南欧諸国からの抵抗に遭ってきた。

今回は6月にECBの副総裁に就任するスペイン出身のデ・ギンドス氏の選出を後押しした見返りで、スペインの協力が期待できるが、金融引き締め局面でのドイツ出身総裁誕生にアレルギー反応が出ることも予想される。そうした際に、ドイツが自国出身者の擁立を断念し、自国に近いタカ派的な立場を採る国の出身者を総裁に据えようとする可能性がある。初代総裁がオランダ出身のドイセンベルク氏に落ち着いたのは、正にこうした経緯によるものだった。現ECB理事会内でバイトマン氏以外にタカ派寄りと目されているのは、エストニア中銀のハンソン総裁、オランダ中銀のクノット総裁、リトアニア中銀のバシリアウスカス総裁、オーストリア中銀のノボトニー総裁。また、タカ派寄りの中立派と目されているのが、フィンランド中銀のリイカネン総裁、ラトビア出身のリムシェビッチ総裁。なお、タカ派の論客として知られたスロベニア中銀のヤズベツ総裁は、4月末に退任して単一破綻処理委員会（SRB）の理事に転籍。後継総裁は6月の総選挙後に発足する政権が選出予定で、その間はドレンツ副総裁が職務を代行する。ハト派寄りの後継総裁候補として名前が上がるのは、フランス中銀のビルロワドガロ総裁、アイルランド中銀のレーン総裁、スペイン中銀のリンデ総裁、イタリア中銀のビスコ総裁、ベルギー中銀のスメッツ総裁など。過去に総裁を擁立したオランダ、フランス、イタリアの中銀総裁、副総裁を輩出したばかりのスペイン中銀総裁、汚職疑惑の渦中にあるラトビア中銀総裁を候補から除外すれば、フィンランド出身者はポスト・ドラギの有力候補となりそうだ。

(図) ECB理事会メンバーの変遷と出身国



注：色分けは、赤：ドイツ、青：フランス、緑：イタリア、紫：スペイン、橙：オランダ、水色：その他、灰色：未定
出所：欧州中央銀行資料より第一生命経済研究所が作成

以上